

■ チーム一丸 ■

快晴の青空に、緑の人工芝が映える。日射しは強いが、そよぐ海風の冷たさが肌に心地よい。能登島グラウンドでの高校総体石川県予選の2回戦、明倫高校サッカー部の対戦相手は8シード校。本校にとっては、早くも前半の山場を迎えていた。

相手校は、長くシード校として君臨している。その実績から分かるように、伝統的に、よく走り、基本に忠実なプレーができるように鍛えられている。昨年度いた上手なフォワードが2人卒業したとはいえ、底力は上である。

試合前、ベンチ全員が、応援席にいる部員の元集まり、大きな円陣ができた。勝負は全員です。その意気込みが伝わってきた。

攻撃力が勝る相手には、組織的で粘り強い守備からのカウンター攻撃が有効である。本校も定石を踏んだ。前半、ミドルシュートで先制する。相手の攻めを丁寧に切り、カウンターを仕掛ける。前半に2点目、後半に3点目が取れた。ほっとしたのも束の間、シード校の意地か、立て続けに2点を返された。それでも、猛攻を凌いで、なんとか1点差で乗り切った。

試合を終えて、選手とスタッフが歓喜しながらスタンドの応援席へ挨拶に向かう。途中、突然監督が引き返した。そして、ケガをしてベンチに座っていた選手を背負って、追いかけた。チーム一丸。最後まで一体感のある光景にうれしくなった。

負け試合や発表での失敗から学ぶことはたくさんある。そして、その経験から得られるものは小さくはない。でもどうせやるなら、やっぱり勝ちたい。練習の成果を発揮したい。流すなら、悔し涙でなく、絶対にうれし涙がいい。みんな吐きそうになりながら、つらい練習に耐えてきたはず。信頼できる仲間もいる。

8シードは倒したが、明日の3回戦に勝たなければ、8シードにはなれない。シードチームになるためには、それにふさわしいチーム力を備えていなくてはならない。さあ、もう一段「チーム一丸」のギアを上げよう。その時が来た。

